

「北海道発！玉ねぎ栽培技術でモンゴルの農業を変える」

ウランバートルの収穫祭で滝川国際交流協会会長が力強く宣言！

JICA 北海道では、一般社団法人 滝川国際交流協会と連携し、北海道の玉ねぎ栽培技術を活用して、モンゴル産玉ねぎの安定栽培実現に取り組んでいます。これは、2020年10月から5年間の期間、JICA草の根技術協力事業(注)として実施をしているプロジェクトで、玉ねぎの種子や種球を輸入することが多いモンゴルにおいて、輸入に頼らず、国内で安定して玉ねぎを生産できるように玉ねぎの栽培方法の指導や、種子及び種球の生産を行っています。

2022年9月18日～25日に滝川国際交流協会の水口典一会長と森田詠美事務局長がモンゴルの首都、ウランバートルを訪問し、「Autumn green days 収穫祭・展示会」(主催:食糧・農牧・軽工業省)にて、プロジェクトで栽培した玉ねぎ等をPRしました。本収穫祭では毎年約1500人もの農家がブースを出展しています。水口会長は会場のステージ上でのスピーチにおいて、「モンゴルの農業を変える気概のもと、モンゴル全土で私たちが開発した国産の玉ねぎを食べていただける日を、楽しみにしながらがんばってまいります。」と意気込みを語りました。その後、ブースには多くの人々が訪れ、収穫祭最終日には用意した玉ねぎは見事完売。森田事務局長は、「温かい人が多いモンゴルに親しみを感じています。モンゴルの農業を変える一端を担えたら。」と本プロジェクトへの思いを語りました。

滝川市は、前回草の根技術協力事業を実施したモンゴル国ウブスハンガイ県と2018年に友好宣言を行い、交流を続けています。北海道の玉ねぎ栽培技術を通して、モンゴルの人々が自国産の玉ねぎを安定して栽培できるよう、滝川国際交流協会の挑戦は続きます。次の渡航は2023年3月を予定。今後も滝川国際交流協会の挑戦に是非、注目いただき、取材をご検討ください。

(注) JICA 草の根技術協力事業とは
地方自治体や地域の NGO、大学等がこれまでに培ってきた経験や技術を生かし、開発途上国への支援活動を JICA と共同で実施する事業。JICA が政府開発援助 (ODA) の一環として行うもので、開発途上国の地域住民の経済・社会の開発または復興に寄与することを目的としている。

収穫祭の様子



ステージで挨拶する水口会長(左)



プロジェクトのブース



JICA 草の根技術協力事業サイト : <https://www.jica.go.jp/partner/kusanone/index.html>

滝川国際交流協会へのインタビューサイト (JICA 北海道) :

https://www.jica.go.jp/sapporo/topics/2021/20220114_2.html

<https://www.jica.go.jp/sapporo/topics/2022/20221031.html>

【本件に関する問い合わせ先】

JICA北海道(札幌) 市民参加協力課 羽田野

TEL011-866-8421 e-mail : Hatano.Kinue@jica.go.jp